

書林

第106号 2025年4月1日発行



巻頭言	1-3
私の薦めるこの1冊	4-7
図書館同好会おすすめ本	8
自著紹介	9
Welcome to SGU Library	10-11
from Library	12
編集後記	13



巻頭言



「本を読む」ということ



学長 菅原秀二

私は人文学部英語英米文学科で、長年、「イギリスの歴史・社会・文化の研究」と題する専門ゼミナールを主催してきました。このゼミナールでは、この大きなテーマのもと、イギリスの様々な側面について、学生が自分自身のテーマを決めて、そのテーマについて調査し、卒業レポートあるいは卒業論文として仕上げてもらうことにしていました。また、ゼミナールBとCの間、例年2月くらいに、実際にイギリスを見てみようということで、1週間ほどイギリスへのゼミ旅行を行い、学生の関心にそった様々なものを見てもらうようにしてきました。

学生が選んだ主題は本当に様々なのですが、「イギリスと紅茶」、「イギリスとサッカー」、「ブリティッシュ・ロック」、「イギリス王室」のような定番のものから、「大聖堂」、「カントリー・ハウス」、「ロンドン塔」といった建築物、さらに最近では「ハリー・ポッター」、「シャーロック・ホームズ」、「切り裂きジャック」のような文学作品(?)も学生の関心を引いてきました。学生には必ずこれらのテーマに関するベースブックを図書館で探してもらうのですが、驚いたことに「いままで、小説も含めて一度もともに1冊の本を読んだことがないです」という学生に遭遇するようになりました。これはいわゆるSNSが一般化した時からますます多くなってきたように思います。おそらく、本を読まな

くても、あるいは新聞を読まなくても学生生活を送ることができるようになったということなのでしょう。あるいは、図書館で本を探すことができない学生もいました。新入生の時にガイダンスを受けたにもかかわらずです。考えてみれば、本を読まず、図書館にもほとんど行っていない学生に必要な本を探せるはずもないですね。

SNSの発展はまさに情報革命を引き起こしています。その結果、本は売れず、出版社は倒産し、街の小さな本屋さんの数は毎年減少しています。なかには、一軒の本屋さんもない街があるようです。「本」はなくなり、すべて電子的なものに置き換わるのでしょうか。私は決してそうなるとは思いません。SNSでの情報と読書から得られる情報とは同じものではなく、相互的に補完しようとするからです。

実は「本を読むこと」、言い換えれば人々が広く本を読むようになったのは、そんなに大昔のことではありませんでした。活版印刷術が発明されたのは、15世紀のヨーロッパです。グーテンベルクという名前を聞いたことがありますか。ルネサンスの3大発明の一つです。その前までは情報は口承かあるいは手で羊皮紙に書き写されていました。口承に活躍したのはいわゆる吟遊詩人、書き写したのは聖職者つまりお坊さんで、場所は教会ないし修道院です。これにかかわって

「薔薇の名前」という有名な小説・映画がありました。文字を読めて書ける者はヨーロッパ中世においては、まずはお坊さんだったのです。一般の人々は文字を読めず、聖書の内容はこのお坊さんが読み伝えていました。この文字がラテン語だったのです。有名な大聖堂や教会には聖書の場面にまつわるステンドグラスが必ずあります。お坊さんつまり聖職者は聖書の説明のために、このステンドグラスを利用したといえます。また、文字が書けるために、中世の行政官僚（役所の事務員ですね）はお坊さんだったのです。イギリスのオックスフォード大学やケンブリッジ大学は、なによりもこのお坊さんを養成する大学として始まったのでした。

しかし、活版印刷が発明されるといわれる本が大量に作られることになりました。それは最初、何よりもまず聖書だったのです。これが近代社会を切り開く情報革命を引き起こしました。その始まりがいわゆる宗教改革です。中世のキリスト教はカトリックでしたが、16世紀にはじまる宗教改革はカトリックから分離するプロテスタント諸派を産み出すことになりました。プロテスタントはカトリックのお坊さんの腐敗を批判し、お坊さんを経ずに自分自身で神の言葉である（これを福音と言います）聖書を読み、信仰を得ることが重要でした。しかし、ラテン語のままでは聖書は読めません。その結果、聖書は各国の言葉に翻訳されることになったのです。イギリスでも英語版の聖書が出現したのですが、その決定版が1611年に出版された欽定訳聖書といえます。国王の下で訳語を統一し、全国の教会で使用できるようにしたものです。ここからいわゆる近代英語が始まったのですが、何よりも一般の人々が文字を読むようになりました。そして、一般の人々が本や新聞から情報を得ることができるようになった結果、大きな社会の変革が起こったのです。すなわち中世を支配していたカトリック教会の分裂を引き起こしたのみならず、いわゆる市民革命も起こり、王様の権力は制限されていきました。それが良心の自由や言論・集会の自由につながり、議会政治の確立に至るわけですが、情報革命が一部の聖職者に限られていた文字を読む・

書くという技能を一般の人々にまで拡大した結果、中世という時代を変革することとなったのです。

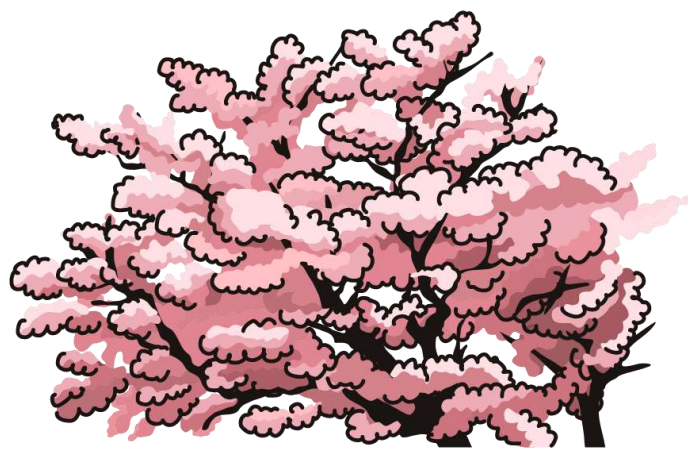
現代も情報技術の発達によって、新たな情報革命の時代に入ったといわれています。このことは人類にどのような変化をもたらすことになるのでしょうか。まず、考えられるのは地球のグローバル化の推進です。情報は一瞬で地球上に伝わり、国境を越えて直に一般の人々に伝わります。この意味では、地球は狭くなったといえるのでしょうか。しかし、技術の発達情報は速く伝える一方、その量は膨大なものとなりました。もはや人間が処理できる能力を超え始めています。最近の人工知能の発達は、まさに人間を超える能力を発揮し始めています。良く知られている例として、囲碁や将棋を考えれば、それは一目瞭然です。小さいころから修行を重ねてきたトップ・プロが膨大な棋譜を記憶したAIにかなわなくなったのです。このような情報過多の時代を生き抜くためには、何よりも情報の正しい選択が必要となります。実はその情報の選択の指針となるのが読書なのです。本には長い間読み継がれてきた古典というものがあります。そこには時代を超えて役立つ情報が満載されていますし、時間をかけて書かれたものには参考になる思考プロセスというべきものがあり、それを読み解き自分のものにすることが正しい情報を選択するベースとなるのです。もちろん、情報の速さと量ということに関しては、本はSNSにかないません。しかし、情報を選択しその質を磨くことに関して読書は必要なもののなのです。最初に、「SNSでの情報と読書から得られる情報とは同じものではなく、相互的に補完しあうと考えるからです。」と書いたのはこの意味だったのです。

最近、前ならば見向きもされなかった「陰謀論」が広く流布するようになりました。「地球は平たい」というフラットアース説や「政治を陰で動かす」といわれるディープステイト説などがその典型です。これはSNSで広く流布しているもののなのですが、特に後者の説がアメリカの大統領選挙に大きな影響を与えたといわれています。そういえば、昨年の東京都知事選や兵庫県知事選の結果にもこのようなSNS情報が大きな影響を与

えましたね。特に兵庫県知事選では誤った情報が誹謗中傷を招き、死者まで出してしまいました。根拠のない情報が発信され、それが面白そうなものならば広く流布してしまい、現実を変えてしまうことがたびたび起きています。これも情報革命の一つの側面であると思いますが、やはり根拠のない事実には踊らされると現実の社会が歪んでしまいます。SNSを情報の中心に考える人は、新聞やテレビをオールドメディアと批判しますが、新聞やテレビは公共性が強いだけに人権侵害の恐れがあることや他にも何らかの支障が生じることに關しては規制がかり報道されないことがあります。その分、規制がないSNSの情報は一見自由に見えるのかもしれませんが、ここでも根拠のない情報ではなく、事実に基づく情報を得るためには、どうしても情報の

選択が必要になってきます。その選択眼を鍛えるためには、時のテストを経た本を読むことが必要となります。すなわち「本を読むこと」つまり読書によってこそ、事実に基づく情報の選択基準や思考のプロセスを獲得することができるのです。

このように、SNSの時代にあっても、「本を読むこと」は重要なのです。図書館には多くの本があるばかりではなく、電子情報も多く所蔵されています。映画などのDVDも多くそろっています。まさに、図書館は大学の知の情報拠点なのです。ということで結論です。「暇な時間があれば図書館に行ってみましょう。」自分が求める情報に遭えることができるかもしれません。





私の薦めるこの1冊



『R・E・S・P・E・C・T』

ブレイディみかこ著／筑摩書房

イギリスの若年者ホームレス向けホステルに暮らすシングルマザーの「ジェイド」は、ロンドンオリンピックの再開発のためにホステルを退去するよう迫られます。地域から低所得層の人々を追い出して再開発を進めることを「ジェントリフィケーション」といいます。また、ホームレス状態や生活に困る人々を地域社会から追い出して街を「浄化」することを「ソーシャルクレンジング」といいます。それを進めるのは政治や経済の世界で「権力」（と利権）を持つ者たちで、彼らは圧倒的な力を持っています。昔から立場の弱い人々はこの力に蹂躪されてきましたが、本書はジェントリフィケーションやソーシャルクレンジングに抵抗して、自分たちの権利と尊厳を守ったシングルマザーたちの闘いの物語です。

それはどうやって、というのが本書の物語の中心ですが、それはみなさんに読んでもらうことにして、ここでは少しだけ理解を助ける解説をしたいと思います。私たちの社会には「経済的不公正」と「文化的的不公正」と「政治的不公正」の3つの問題があります。経済的不公正は「貧困」や「格差」の問題です。文化的的不公正は「承認」や「尊厳」を否定するといった、その人たちの存在を対等なものとして認めないという問題です。そして、政治的不公正は「参加」や「決定」に関わる機会の偏りによっ

て人々の力を不当に奪うという問題です。本書に登場するジェイドやほかのシングルマザーたちは、自分たちの住まいと子育ての場を、生まれ育った場所で暮らす権利を、そしてなにより自分たちの尊厳を守るためにこの3つの問題に立ち向かいます。本書をつうじて不平等や

不公正と闘うこと、自分らしく生きるために自分の権利や尊厳を守ること、そのことが私たちの人生においていかに大切かを感じとってほしいと思います。なお、本書はフィクションですが、イギリスで2014年に起こった「FOCUS E15運動」による「カーペンターズ公営住宅空き家占拠/解放活動」に着想を得ています。



本書は特に2・3年生のみなさんにお薦めします。同じ著者の書籍として1年生には『両手にトカレフ』、4年生には『女たちのテロル』をお薦めします。3冊とも、百年前のイギリスや日本の女性解放運動に関わる歴史的な女性たちの物語が背景になっています。いずれも「百年前の彼女たちから、百年後を生きるあなたへ」時を超えた応援メッセージです。

大澤真平／人文学部人間科学科教授

所蔵情報

【江別・1層書架:和書 913.65/BRA】

『バビロン行きの夜行列車』

レイ・ブラッドベリ著/角川春樹事務所

先日、担当する教養英語のクラスでの出来事がきっかけで、本棚から懐かしい一冊を手にとることになりました。私のクラスでは、毎回授業の冒頭に新しい洋楽を一曲流しています。主な目的はリスニング練習ですが、歌詞の自然な英語に触れたり、その背景について学生たちと話したりする時間がとても楽しいのです。選曲は私が行うことが多いのですが、受講生からのリクエストがあれば必ず採用するようにしています。

その日のリクエスト曲は、1972年にリリースされたエルトン・ジョンのRocket Manでした。若い世代の学生がこのような古い楽曲を知っていることに驚きましたが、聞いてみると「フィギュアスケートの世界大会で選手が使用しているのを聴いて好きになった」とのこと。2019年には同タイトルのミュージカル映画も公開されており、他にも知っている学生がいるかもしれません。

この曲は、タイトルからも想像できる通り、レイ・ブラッドベリの短編小説を元に行っていると言われています。宇宙旅行に取り憑かれるあまり、家族を置いて空の彼方へ旅立つ父親と、家に残される家族とのすれ違いが、独特の筆致で描かれている作品です。エルトン・ジョンが歌う“I'm not the man they think I am at home”（僕は家のみんなが思っているような男じゃない）という歌詞には、「ロケットマン」としての父親の孤独感が巧みに表現されています。

話が長くなりましたが、私は上記の作品を含め、レイ・ブラッドベリの短編小説が大好きです。特にお気に入りだったのが、短編集『バビロン行きの夜行列車』（原題：Driving Blind）で、それこそページが擦り切れるまで繰り返し読むことができました。この作品には全部で21の物語が収められており、ジャンルやテーマが多彩で、読むたびに新鮮な驚きを与えてくれます。

中でも、特に印象に残っているのは『鏡』

（原題：The Mirror）です。この作品では、葛藤を抱えながらも共に生き、老いてきた双子の姉妹が、ある日を境に別々の道を歩み始め、意外なラストを迎えるというストーリーが描かれています。また、ホラー色の強い『くん、くん、くん、くん』

（原題：Fee Fie Foe Fum）では、老婆と同居する孫娘の夫との奇妙な戦いが描かれ、さらに『ミスター・ペイル』（原題：Mr. Pale）では、宇宙船にいつの間にか紛れ込んだ瀕死の人物の謎が展開されます。どの作品もブラッドベリ独特の空気が漂い、不思議な読後感を味わえます。

彼の作品には、現実と空想が交錯する独自の世界観があります。この短編集もすでに絶版となっており、入手は難しいかもしれませんが、もし古書店などで見つけたら、ぜひ手に取って読んでみてください。ブラッドベリの文学は、その一冊を開くたびに新たな感動を与えてくれるはずです。



所蔵情報

【江別・2層書架:文庫 933.7/BRA】

水島梨紗／人文学部英語英米文学科准教授

『運動脳』

アンデシュ・ハンセン著/御船由美子訳

/サンマーク出版

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。初めての一人暮らし、慣れない授業形態、新しい人間関係等で周囲の環境が大きく変わり、様々なストレスや疲れを感じてはいませんか。在学生の皆さん、新年度を迎えて新しい自分にチャレンジしてみたいけれど、その一歩がなかなか進まないということはありませんか。

そんな皆さんに是非お勧めしたい図書が、アンデシュ・ハンセン著の『運動脳』です。著者はスウェーデンの精神科医で、著書には『スマホ脳』『ストレス脳』等のヒット作も多くあります。今回の本は、脳科学の最新研究をもとに「運動が私たちの脳にもたらす影響」について簡潔にまとめた渾身の一冊です。何より最初から「…だから、〇〇の運動は△△な良い効果をもたらす」と結論が明確なため、非常にわかりやすく、安心して読み進めていける本となっています。また、周囲の人にちょっと教えたくるような運動ネタも盛りだくさんで、興味深く読める本でもあります。

皆さんは運動というと、どのような効果があると思われるでしょうか。体力をつける、筋肉をつける、痩せたい、健康体を維持する・・・等にクローズアップしがちですが、実は脳へも大きく影響を受けるのです。様々な研究をもとに創造性推進装置にも不安解消剤にもなり得る



ことが解明されており、そのような効果は日々の睡眠や集中力・記憶力・創造性等のパフォーマンスの向上に直結していきます。そんな素敵な運動効果とあれば、ぜひ体験してみたい気持ちになりますね。

ですが、一番の難関は、継続できるかどうかになります。日常的な運動というと、部活や身体作りのための筋トレ等、過激な負荷を想像しがちですが、それだけが運動ではありません。この本では、継続的かつ、効率的に効果を出せる運動法（脳の訓練方法）について、自分にあった方法を見つけていくことができます。

実際に私も、過去にロードバイクをしていましたが、雪や寒さを理由に運動から遠ざかっていました。ですが、この本と出会ったことで理論的に説明された運動効果に興味を持ち、運動再開の原動力となりました。現在はジムで週に一度ゆったり運動するほか、通勤やお買い物での移動を“またとないウォーキング時間”として少し多めに取り入れることにより、以前よりも体力面ばかりか緊張やプレッシャーというストレスに対して自分自身が強くなっているように感じます。そして、積極的に身体に酸素を取り込むせいか「ポジティブ思考」と周囲に言われるようにもなりました。

ぜひ皆さんもこの本によって生活の一部として運動を取り入れ、ストレス耐性を高め、健康的で充実した大学生活を送っていただけたらと思います。そして、いつかこの本を読んだ感想を報告しに保健室までいらしてください。いつでもお待ちしております。

藤原幸子／保健室職員

所蔵情報

【札幌・固定:和書 書架番号 1-22 491.3/HAN】

『プロジェクト・ヘイル・メアリー』

アンディ・ウィアー著/小野田和子訳/早川書房

本書は『オデッセイ』としてマット・デイモン主演で映画化された小説『火星の人』の著者、アンディ・ウィアーのSF作品です。あらすじを一切書かずに本を薦めるのは私にはとても難しいのですが、それでもこの物語は一切の事前情報無しに読み始めることを強くお勧めします。

SFでありながら物語の中のある設定によって人間がこれまで獲得した多くの知識の裏付けを説明されつつ進む構成になっており、リアリティと共に物語の世界に引きずりこまれていきます。

突然世界を救わないといけなくなるなど自分の人生には起きるはずはない、そう多くの人が思っていた2020年にはパンデミックが発生し、一人一人がそれぞれの立場で困難と戦うこととなりました。

本学も全面的な遠隔授業への移行を余儀なくされることとなり、いつかまたキャンパスが学生皆さんの笑顔で溢れる日が来ることを信じて、全学が一丸となって持てる知識を総動員して困難な課題に立ち向かいながら業務にあたったことが本書の主人公の挑戦と重なって思い起こされます。

しかし、パンデミックによって多くの青春の機会が奪われてしまった皆さんの悲しみや悔しさを私が自分自身の体験として理解することができないように、本書でもまたどうなったのか明かされることのない、けれど主人公にとってとても重要な世界があります。

想像することはできるけれど、本当のところはわからない、わからないけれど思い続けている、そこもまた本書が描くもう一つの「リアル」であると思います。

人が持つ大事な力、他人のことを思い想像できる力がなければ、どんなに高度な科学力をもってしても物語はこの結末を迎えることはなかったでしょう。

他人を想う気持ちと共に生きていれば、いつかかけがえのないものに会えるのかもしれない、そう思える物語です。



原田寛之/情報処理課職員

所蔵情報

【江別・1層書架:和書 933.7/WEI/1】

【江別・1層書架:和書 933.7/WEI/2】



図書館同好会おすすめ本



『小説 仮面ライダーディケイド 門矢士の世界～レンズの中の 箱庭～』

鐘弘亜樹著 井上敏樹監修 石ノ森章太郎原作／講談社

皆さんに思い出の特撮ヒーローはいますか。

仮面ライダーが好きだった人、スーパー戦隊が好きだった人。幼少期、ヒーローに憧れていた記憶のある方もいるのではないのでしょうか。そのなかで、私が今回紹介する「仮面ライダーディケイド」を覚えている方も少なくないと思います。覚えている方も知らない方も、ぜひ読んで頂きたいです。

まず本作はディケイド本編と関連がありません。キャラクターたちはそのままですが、彼らが抱えて

いるものや過去は全くの別物であり、何も知らない人が読んでも楽しめます。もちろん知っている人が読んでも「もうひとつのディケイド」として新鮮に映るでしょう。

主人公、門矢士はとあるきっかけで仮面ライダーに変身し、様々な世界に渡りながら戦い続けます。とても大まかなあらすじはこうです。文にすれば正当なヒーローモノのように思えますが、本作の特徴は所謂大人向けに書き起こされたなかで漂う陰鬱な雰囲気だと感じています。あの頃、テレビで戦っていたヒーローたちが見せるダークな一面を見てみませんか？



所蔵情報

【江別・2層書架:文庫 913.65/KAN】

図書館同好会[新札幌分館]所属

心理学部臨床心理学科 4年

澤内美花里

『死ぬ瞬間の5つの後悔』

ブロニー・ウェア著 仁木めぐみ訳／新潮社

この本は、緩和ケアの介護に長年つとめ、数多くの患者を看取った著者の経験を基に書かれたものです。介護に務める経緯からこの本のきっかけとなるブログを書くまでの著者の人生やその中で関わった最期について書かれています。人生の最後に何を思うのか、著者の思いだけではなく、著者が関わってきた方々の思いや言葉も多く書かれています。

この本を読んで、行動に移すことができたし、人生のヒントも得られたような気がしています。要約はネットに挙がっていますが、実際読むのとは言葉の重さが違います。気になった方は、ぜひ読んでみてください。



今この文に出会ったのも何かの縁かと思うので、これを機に大切な人をより大切にしてください。しばらく会っていない親族や友人に連絡を取ってみるとか、家族で思い出を作るだとか。死ぬ瞬間に後悔してももう遅いので。

死ぬ瞬間の5つの後悔

1. 自分に正直な人生を生きればよかった
2. 働きすぎなければよかった
3. 思い切って自分の気持ちを伝えればよかった
4. 友人と連絡を取り続ければよかった
5. 幸せをあきらめなければよかった

所蔵情報 ※下記の形の出典表示は新潮社に従っております。

ブロニー・ウェア著『死ぬ瞬間の5つの後悔』(新潮社刊)

【札幌・固定:和書 書架番号 1-22 141.6/WAR】

図書館同好会[新札幌分館]所属

経済経営学部経営学科 4年

川瀬美都



『どう生きるかー18 歳からの倫理』

川原茂雄著/海象社/2024 年

この本は「どう生きるかー18 歳からの倫理」というタイトルですが、18 歳やそれ以上の人たちを対象とした「大人向け」の本ではありません。むしろ 18 歳になる前の人たちにもぜひ読んでほしいと思って書きました。

みなさんは小・中学校の「道徳」という教科で、教科書や副読本を読んだりビデオを見たりして、正直、誠実、節度、感謝、礼儀、友情などの「徳目」について教えられ、話し合いをしたり作文を書いたりしたと思います。また、高校では「倫理」や「公共」という科目で、過去の哲学者・思想家の思想や言葉を教えられ、それらを良く分からないままテストのために暗記させられたと思います。

この本に書いてある「18 歳からの倫理」とは、そのようなものではありません。「18 歳からの倫理」とは、自分の人生をどう生きるかを自分で考えること、自分の人生の生き方を自分で決めて生きていくことです。

それは 18 歳になってからではなく、18 歳になる前から考え始めなければならないことですが、誰でもが必ず、いつかは自分の人生を自分で考え、決めなければならないのです。

「18 歳からの倫理」には、正解はありません。一人ひとりにとって、それぞれの人生が違っていき、その生き方の答えもまたそれぞれに違って当然なのです。

誰かがその答えを教えてくれたり、教科書や本のどこかにその答えが書いてあるわけでもありません。その答えは自分で考えて出していかなければならないのです。

それは、テストがあるから、成績がつけられるから答えるのではなく、自分の人生の生き方を自

分で決めなければならないから、必ず自分自身で考えて答えなくてはならないのです。つまり「18 歳からの倫理」とは、自分の人生を生きていくための、生き方の答えを見つける「必修科目」なのです。

では、どのようにして「18 歳からの倫理」を学んでいけば良いのでしょうか。そのためには、まず自分の人生を考える“力”を身に付けるトレーニングが必要なのです。

この本では、「人間の生き方の理（ことわり）」について深く考えた過去の哲学者・思想家たちの言葉や考え方を紹介しています。

しかし、これらの哲学者・思想家たちの言葉や考え方は、あくまでもみなさんが自分の人生をどう生きるかを自分で考えるため、自分の人生を自分で決めていくための“力”を身に付けるトレーニングのためのものなのです。

哲学者・思想家の言葉や考え方は、「自分の人生を考える力」を鍛えるための筋肉トレーニング（筋トレ）に必要なダンベルやバーベルのようなものです。「自分の人生を考える力」がみなさんの身に付いたら、それはもう必要はないのです。

この本を読むことによって、みなさんが自分の人生を考える“力”をしっかりと身に付け、自分で自分の人生の生き方を決めることができることに少しでも役立つことができれば幸いです。



所蔵情報

【江別・本学教員著作コーナー 150/KAW】

【江別・1 層書架:和書 150/KAW】

江別本館 施設案内

～どんな場所？ 何ができるの？～

Welcome to SGU Library

江別本館は、江別キャンパスⅠ棟
(3号館の隣りの建物)にあります。



1階カウンター

職員が常駐しています。
貸出・返却などの手続き、
利用に関する相談はここで！



1階入り口

入ってすぐのスペースは、
飲食ができるラウンジです

第1閲覧室(参考図書コーナー)

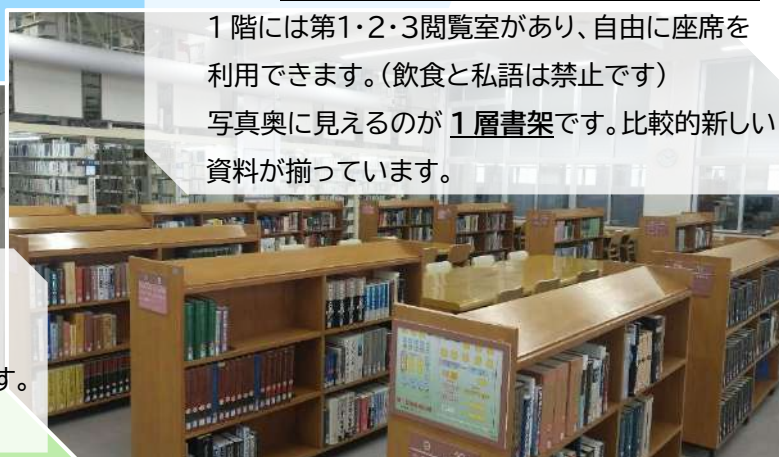
1階には第1・2・3閲覧室があり、自由に座席を
利用できます。(飲食と私語は禁止です)

写真奥に見えるのが1層書架です。比較的新しい
資料が揃っています。



第3閲覧室

左右を区切られた机(キャレル)があり、
静かに本を読んだり、自習するのにオススメです。



2階ラーニングコモンズ

グループディスカッションやプレゼンができる
会話OKのエリアです。(飲食は禁止です)
ホワイトボードや移動式のテーブル・椅子など、
自由な学習のための設備が揃っています。



新札幌分館

施設案内

新札幌キャンパス 2階



図書の貸出・返却、
図書館利用について
いろいろ相談できる
カウンター



入退館ゲート
学生証をかざして出入り

柱の本棚は コリドール
資格試験問題集や就職資料がある



会話ができるアクティブゾーン
カウンター席には電源コンセント



学習室ではグループ学習ができる
プロジェクターもあるぞ！！



ガラスで囲われたサイレントゾーンは
私語厳禁！集中して学習ができる



約 10 万冊所蔵の本棚
中央の座席を挟んで、右側の
電動書架には経済・経営系図書
左側の固定書架には心理系図書

下澤 萌(図書館職員)

学生だった頃、朝の支度をしながら、あるテレビコマーシャルで放送されていた谷川俊太郎氏の詩「朝のリレー」の朗読を聴いていた。ピアノのBGMも素敵だったので、なおさら記憶に残っていた。

そういえば、原作を読んだことがなかったの
で図書館で借りて読んでみた。右から読むと詩集、左からみると絵本という斬新なビジュアルブック。てっきり、朗読されていた詩は、その詩集のメインのページ（例えば最初の方のページなど）に載っているのかと思ったら、それは右から開いて4ページ目にある「なにげなくある」程度の雰囲気。だけど、それを感じさせない壮大な世界観で圧倒される。それに加えて、はっとするほどの美しい朝の風景写真。

「テレビ」「本」、媒体は異なっても印象は変わらずに詩のスケールは大きく、世界中の「朝」を描いている。地球上に等しく朝はやってきて、過ぎ去って、また新しくやってくるという、そのサイクルを夢のある言葉で美しい写真とともに表現している。当たり前と思っていた、「次の日がある」ことがいかに特別なこと

か、谷川氏のフィルターを通すと素敵に響いてくる。

さて、「朝」だけではなく、図書館もリレーのように受け継いでいることはあるが時代に合わせて、まるで新陳代謝するように変わっていく。環境や人が変化していくため、それに見合った図書館づくりを図書館員は見えないところで工夫をしている。



＊

4月には新入生が入学してくる。きっと、期待に胸を膨らませていることと思う。

図書館員として、進化していく生物のような図書館を面白がりながら、気持ちを新たに新入生のような気持ちで乗り越えたい。

参考文献/所蔵情報

『あさ』 谷川俊太郎/文・詩 吉村和敏/写真 アリス館 2004年【江別・1層書架 911.5/TAN】

今号に掲載した記事の一部は、図書館ブログにも掲載しています。
図書のおすすめの他、図書館イベントや企画展示など、
図書館を楽しみ、活用するための情報が盛りだくさん！
ぜひお気軽にのぞいてみてくださいね！



ブログ URL(右の QR コードからもアクセスできます)
<https://sgu-library.hatenablog.com/>

編集後記

『書林』第 106 号、いかがでしたでしょうか？

新学長 菅原先生の巻頭言「本を読む」ということから始まり、ノンフィクションや小説等 7 冊を教員、職員、学生の皆さんに紹介していただきました。

皆さんは、この中で手に取って読んでみたいと思った本はありましたでしょうか？

また、新入生の皆さんにとって、人文学部の川原先生の著作『どう生きるかー18 歳からの倫理』も今までの自分を振り返り、これからの自分を考えるうえで重要な指針を与えてくれると思われます。

新入生の皆さんは、新入生ガイダンスの図書館ツアーで札幌学院大学図書館が高校の図書室とはその大きさや蔵書量の多さで全く異なっていることに気が付いたと思います。

これからの 4 年間、この図「書」の「林」を彷徨い何か自分だけの尊いものを見つけ出して下さい。

※掲載記事の著作権は札幌学院大学図書館にあります（無断転載禁止）。

紹介資料の写真掲載については各出版社に許諾いただいています。

心から御礼申し上げます。